

フィールド風

(現場)からの

宮田守男

長野県は、毎月人口異動調査に基づき10月1日時点の年齢別人口推計で、65歳以上の割合を示す高齢化率が31・5%で過去最高を

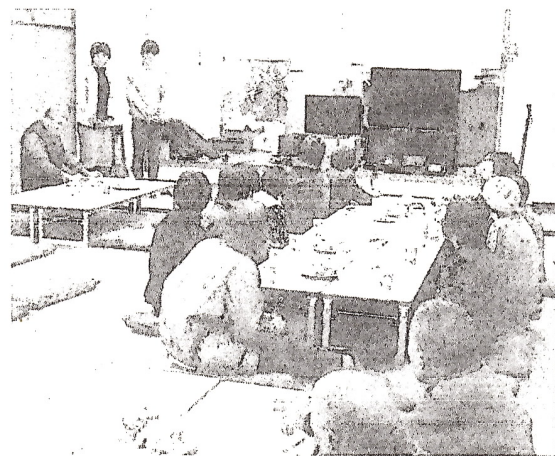
更新したと発表した。また週刊東洋経済「20年後ニッポンの難題」では、大正大学地域構想研究所客員教授の岩村暢子さんが、1960年以降に生まれた人を「日本で初めて『個』という事をとても大事にして育てられ

手である家族介護の困難が予想される中、自分達が住む地域がどうあるべきか問われる状況に直面している。私の住む森上区でも、高齢化・少子化への問題意識が高まり、区の本年度事業で各世代が連携し高齢化社会

の試みを展開している。が、午後の時間帯の展開は初めての取り組みだった。地区で実行委員会を立ち上げ、年2回の開催を決定、今年度は地域医療の最前線で活躍している横澤伸医師の「認知症予防」

上。真剣にメモを取り、話題は家族の健康管理まで広がり楽しい集まりとなった。横澤先生には感謝しかない。森上区内は飲食店等は営業を廃業。お互いが出合うのは、お祭りの時くらい。話をする場所は、お互いの家を訪ねる事がほとんどだ。福祉サービスを受けるには、地域外に出掛けるしかなく、結果地域の交流に限られるが実態。第1回の参加者のほとんどが第2回目の開催の時も参加してくれた。「地域の中で、私たち

地域で暮らし続けられる仕組みの構築は、積極的な取組行動が必要だ



参加者に夫婦や女性が多いのは、家族全体の健康に関心が有るのだから

の事を考えてくれてうれしかった」、「久しぶりに楽しい一時が過ぎた」の声は企画に携わったメンバーにはうれしい反応だった。何を企画し実行するにも、煩わしい事もある。

将来迎えるであろう時のために、自らが行動する大切さを改めて思った事業でもあった。(NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上)